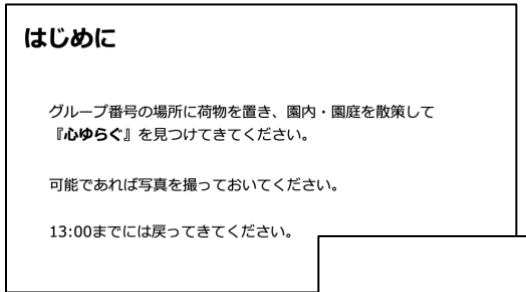
2025 年 8 月 1 日
協働探究ラウンドテーブル奈良 2025
「環境構成」をめぐる対話
―空間が「場」になるとは？―

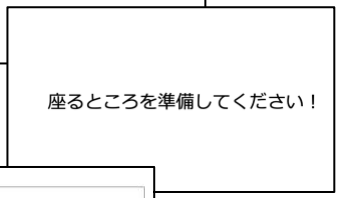
近年、主体的・対話的で協働的な学び（探究的な学び）を実現するための「場づくり」への関心が高まっています。単に空間があるだけでは「場」とは言えません。空間が「場」になるとはどういうことなのでしょうか。乳幼児教育における「環境構成」に目を向けながら、空間を「場」にする体験を通じて、自身の教育実践における「場」の意味を豊かに描き出していくことを目指しました。

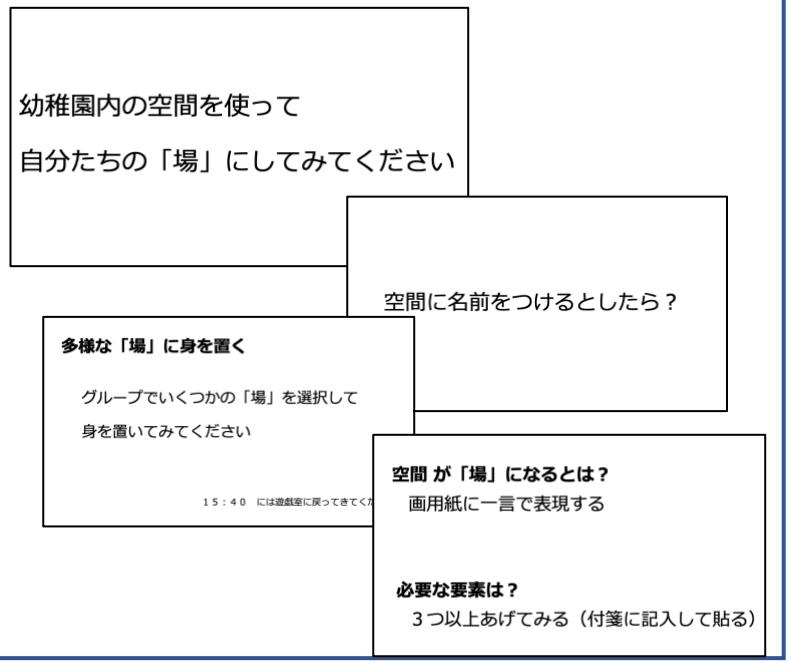
協働探究ラウンドテーブルについて
教師、保護者、学生がともに問いに向き合い、自身の身体感覚を通して言葉を紡ぎ、学びを創造する場です。

本園の環境を活用し、自らの五感を使って研修の環境を自身で構成することから研修を始めました。
教育実践における「環境構成」を通して空間から「場」になっていった実践報告を聴き、各自の実践における「場」について対話を通して具体的に想起をしていきました。
その後、実際に空間から「場」になる過程を、ワークショップを通して経験していきました。その過程において感じ考えたことについて語り合うことで、「場」になることの意味について探究していきました。
参加いただいた皆さま、ありがとうございました。
申込者：57 名
乳幼児教育実践者（幼・保・こ）　33 名
小・中・高・大学教員　12 名
学生・行政・一般（保護者含む）　12 名

## プログラム概要





## 研修の様子

環境に出会う

「場」をめぐる対話

空間から「場」へ

## 参加者の方のふりかえり（抜粋）

正解はないし、それぞれの思うことが、
それでいいんだなと思った。いろんな方のお話が聞けてよかった。
一つのテーマなんだけど、いろんな発展があり、盛りだくさんでよかった。（保育士）

「分からない」を頭だけでなく、感覚や体も動かし働かせながらグループや全体で一緒に探究していく時間に、ワクワクしました。（大学教授）

毎回ちょっとした思考のきっかけのようなものをいただいていると感じます。立ち止まって考えて言語化してみる。はじめましての人にそれらを伝えられるように頑張ってみる、相手の言葉を理解しようとする、たまに視点の転換や広がりが生じる、その面白さを感じます。自分の中に確かに息づいているけれど、はっきりと定義がないまま、曖昧だったものがまだたくさんあって、そのうちの一つに言葉で輪郭を与えていく作業だったと思います。それから、この振り返りアンケートも感覚的な何かを言語化するもので、非常に時間がかかるけれどこのアンケートも込みで研修だなと感じています。（幼稚園教諭）

それぞれのグループで好きな場所を選んで場づくりを行った後、明らかに部屋の中の音が増えた感覚があった。上手く言えないけど、これが「場」かもってふっと思えた。（高校生）

整理整頓について再考する必要があると思っています。画一的な整理整頓は発想の可能性を狭めてしまう可能性があるからです。（高校教諭）

「場」をつくる体験をする中で、良い場にしようとすればするほどアイデアが広がり、どんどん展開していくことに驚きました。想像以上に時間やエネルギーを要し、「子どもたちと一緒に場をつくる時には、こうした面も考慮しながら進めていく必要がある」と実感すると同時に限られた時間の中で、子どもと一緒に作り上げるプロセスそのものを大切にしていきたいと思います。（一般企業勤務）

身体性を伴うワークはなかなか中学、高校ではないので参考にしたいです。幼稚園だからではなく、中学、高校でも、身体を伴った暗黙知から研修ができると面白いと思います。（行政職）

これまで「環境構成」を考える時、発達年齢や教師のねらいを意識し、「自分のものがあると安心感がもてるよう、一人ひとつ以上の十分な数の用具を用意する」など具体的な配慮を考えることを大切にしてきました。しかし、改めて「環境構成とは？」「空間とは？場とは？」と問われると、自分の言葉で語ることに難しさを感じます。これまでいかに「方法」という視点に偏り、「保育の世界にあふれた常套句」で表現することに慣れきってしまっていたことに気付かされました。「方法」を考えることは大切ですが、本質的な問いに対しての自分なりの考えを持った上で、「方法」を考えられるようになりたいと思いました。
（大学院生）

場になるのは空間があるだけでは成り立たないと改めて思いました。それは大人も子供も同じだなと。どんなに楽しい空間を用意してもその空間が自分にとって安心でき、ワクワクしないと場にはならない。（小学校教諭）

子どもの成長過程に応じた場の配置をし、遊びや学びを限られた空間でいかに深めることができるかなど、家で過ごす時間の長い幼児期だからこそ、家庭でも実践できるヒントがたくさんあると思いました。自分自身が身を置くさまざまな「場」で生かしていきたいと思いました。（保護者）

## 研修を振り返って

この研修を企画・設計し、実施していくその過程に身を置くことで「場」になりゆくということを実感しました。いつもの幼稚園という空間に、さまざまな人の思いや感じ方などが重なり合い形になっていくことで、幼稚園が子どものための施設という意味だけではなく、ここに身を置く一人ひとりが学び合う場という意味ももっているものへと変容し始めました。人と人がつながり合って空気が動き始めた時、改めてこの幼稚園が「場」になったと感じました。学びは提供するものではなく、今ここでともに創り上げていくものだと再確認しました。これからもともにつくりあげる研修を企画していきたいと思います。